



「すずがみ」に金鍍で模様を入れていく鍛金の作業

有限会社シマタニ昇龍工房

製造業(金属製品)

平成28年度 ものづくり技術

H28



一般型

伝統的な鍛金技術と錫を組み合わせ製品化「すずがみ」の新たな可能性を広げる



補助金で導入した圧延機。幅は40cm、薄さは約0.4mmまでの圧延が可能に

会社の概要

当工房は江戸後期から脈々と続く高岡の鑿子^{けいす}=りん職人の家で育った初代和吉が、明治42年に創業。鑿子作り一筋、一子相伝により仏教伝来の伝統技法を今に伝えている。工房には、全国に10人に満たないりん職人が3人おり、「金鍍で叩く」ことにより板を絞り、丸みを整え、音を調律することでりんを制作している。戦時中の金属の供出により寺院から失われたりんの製造は戦後に特需を迎え、職人が連日金鍍の音を響かせた。しかし、それ以降50～100年の

耐用年数のあるりん製造は右肩下がりとなっていた。

そこで4代目は暮らしの中で使える新たな製品の開発を始め、平成25年、自社ブランド「syouryu」を立ち上げた。当初は、銅製のコースターや灰皿などを製品化したが、起爆剤とまではいかなかった。その頃、高岡では鋳物の錫製品が食器や酒器として製品化され、大きな反響を呼んでいた。コーティングせずに食器として使える錫という素材。これを鍛金技術と結びつけることはできないか。しかし、鋳物の錫はそのまま金鍍で叩くと簡単に割れてしまう。試

行錯誤を繰り返す中で、錫は、何度も繰り返し薄く延ばすことで強度が増すことを発見した。原材料として使用するのは純度99.9%の錫である。薄くのばした錫はさらに金鍍で叩くことで金属が繊維状になり、より強くしなやかに曲がる。薄く、自由に曲げ伸ばしができる紙のような金属「すずがみ」が誕生した。

金鍍で叩いた美しい模様をたたえた「すずがみ」は、食器としてはもちろん花器、お香立て、アクセサリートレイとしても使え、全国のデパートをはじめ、ネットショップなどでも取り扱われている。

補助金事業の内容

受注が伸びる中、錫を何度も薄くのばし強度を上げていく圧延作業を自社で行おうと、金箔製造の工程で使われていた圧延機を金沢の工房から譲り受けた。圧延機では、板状になった錫を上下2つのローラーで挟んでゆっくりと延ばしていく。40年ほど前から使われていた圧延機は今も現役だが、延ばすことのできる幅が30cmまでと限られ、製品のサイズは最大で24cm。それ以上のサイズの受注にはこたえることができずにいた。そこで、今回の補助金では、さまざまな要望を取り入れた新たなオリジナルの圧延機を導入したのである。



自由に曲げられ多彩な用途を持つ「すずがみ」

会社データ



設立 明治42年
代表 島谷 衆一
所在地 高岡市千石町4-2
TEL/FAX TEL:0766-22-4727 FAX:0766-22-4717
E-mail info@syouryu.co.jp
U R L http://www.syouryu.co.jp
http://syouryu.com
従業員数 13人
取扱製品 寺院用のりん、錫製品

補助金事業の成果

新しい圧延機では、錫の板を最大40cmまで延ばせるようになり、従来より6cm長い幅30cmの「すずがみ」の生産が可能となった。また、従来の圧延機では約0.7mmまでだった厚みも、約0.4mmの薄さにまで加工することができるようになった。より薄く、まるで折り紙のように簡単に曲げ伸ばしができる新たな「薄すずがみ」が生まれ、製品の幅を広げることにつながった。

また、2つの圧延機を併用することで、繰り返し行う圧延作業の効率化がはかれ、生産供給能力が格段に増している。

今後の展望

全国で実演販売をするなどし、「すずがみ」は、ますます市場を広げている。昨年からはニューヨーク近代美術館のミュージアムショッ

プでも販売されるようになり、世界からも注目を浴びている。新たな圧延機の導入により、今後市場を広げていきたいヨーロッパではより大きな食器が好まれるため、それにこたえる製品作りを行うことができる。さらに、ハサミで簡単に切れるほど薄く延ばせるようになったことで、例えばアクセサリ材料としてなど、さまざまな用途が生まれる可能性を秘めている。

また、暮らしの中で使える身近な生活用品としての「すずがみ」をきっかけに、当工房の門を叩く若者が増えている。現在、工房では、女性も含め、多くの若手職人が活躍している。

「すずがみ」が、さまざまな用途で使われ、さらなる広がりをもせることで、全国的にも数少なくなったりん製造職人が高岡で育ち、伝統技術を守り伝えていくことにもつながっていくと考えている。



3種類の鋳目模様がある



導入した圧延機により誕生した「薄すずがみ」